



# 過去最多の梅毒が報告されています！

令和3年12月15日  
富山県感染症情報センター  
(富山県衛生研究所内)  
(0766-56-5431 直通)

## 感染症発生動向速報

(令和3年第49週分・12月6日～12月12日)

### 《インフォメーション》

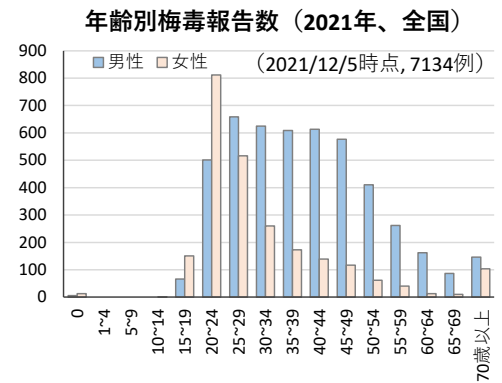
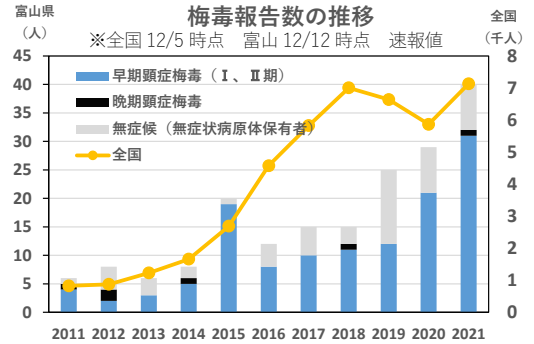
#### ●梅毒

1948年以降、全国の梅毒患者報告数は大きく減少していましたが、2010年から増加に転じました。今年の報告数は12月5日時点で7,134例が報告され、1999年に感染症法が施行されて以降、過去最多となる見込みです(上図：折れ線グラフ)。年齢別にみると、男性では20～50歳代と幅広く、女性では20歳代に多くなっています(下図)。また、男女ともに異性間性的接触による感染が最も多く報告されています。人口当たりの報告数は東京都、高知県、大阪府、岡山県、宮崎県の順に多く、地方でも患者が増加しています。

県内の報告数は12月12日時点で40例となり、全国の報告数と同様に過去最多の状況です。(上図：棒グラフ)。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。感染経路は、菌を排出している感染者との性行為が大部分を占めます。感染後、約3週間で発症しますが(下表)、無治療であっても症状が消失してしまうため、医療機関を受診するきっかけを逸してしまうことがあります。そのまま無治療の場合、一定数の患者が感染後数年～数十年後に、心臓や脳などに重篤な症状を呈することがあります(晩期頭症梅毒)。また感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染することもあります(先天梅毒)。初期の症状である性器の潰瘍などの症状に気づいたら早めに医療機関を受診しましょう。また、感染が判明した場合、パートナーも感染している可能性があります。パートナーも検査を受けることが重要です。

感染予防には、不特定多数との性行為を避けること、適切なコンドームの使用などが効果的です。また梅毒は抗菌薬による治療が可能な疾患ですが、症状が軽快しても治療を自己中断しないことが重要です。



早期頭症梅毒 (第I期)	感染から約3週間後に感染部位の皮膚や粘膜に硬結ができますが、2～3週間で消失します。
早期頭症梅毒 (第II期)	約3か月後には全身に赤い発疹(バラ疹)が出現します。この他に発熱や全身倦怠感など様々な症状が出現しますが、数週間～数か月で消失します。
晩期頭症梅毒	約3年以上経過すると、皮膚や粘膜、骨を中心としてあらゆる臓器にゴム腫と呼ばれるしこりができ組織を破壊します。また心臓や脳、脊髄など複数の臓器に病変が出現し、これらが死につながる場合があります。

### 《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 1件 (80歳代、男性)
- 四類感染症 つつが虫病 1件 (90歳代、女性)
- レジオネラ症 1件 (70歳代、男性、肺炎型)
- 五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1件 (70歳代、女性)

### 《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	5.14 (↑)	3.97
2位	手足口病	1.72 (↓)	1.76
3位	ヘルパンギーナ	1.48 (↓)	2.03
4位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90 (↑)	0.59
5位	RSウイルス感染症	0.62 (↑)	0.17
6位	咽頭結膜熱	0.34 (↓)	0.55

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年第49週 令和3年12月6日～令和3年12月12日）

分類	疾患	今週報告分（第49週）						累積報告数（令和3年第1週（1月4日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症								379	282	1,079	300	2,150	98	4,288
二類感染症	結核					1		1	13	8	33	17	59		130
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症									1	7	1	7		16
四類感染症	E型肝炎								3				2		5
	A型肝炎								1						1
	つつが虫病					1		1	1				1		2
	レジオネラ症					1		1	5	3	16	3	13		40
五類感染症	アメーバ赤痢								1				2		3
	ウイルス性肝炎								2				1		3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										2	2	5		9
	急性脳炎										1		1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										6	2	2		10
	後天性免疫不全症候群								1			2	1		4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1	1	1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症					1		1	1		3		18		22
	水痘（入院例）									2			1		3
	梅毒								2	1	5	1	31		40
	播種性クリプトコックス症												2		2
	破傷風											1			1
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										5		1	
RSウイルス感染症		5	12		1			18	139	144	1,578	392	842		3,095
		1.25	4.00		0.25			0.62							
咽頭結膜熱				6		4		10	48	46	181	7	163		445
				0.75		0.40		0.34							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	1	6	5	12		26	80	41	502	107	305		1,035
		0.50	0.33	0.75	1.25	1.20		0.90							
感染性胃腸炎		16	11	58	24	40		149	844	495	731	294	1,492		3,856
		4.00	3.67	7.25	6.00	4.00		5.14							
水痘		1	2	3				6	4	19	32	23	64		142
		0.25	0.67	0.38				0.21							
手足口病			1	16	13	20		50	7	3	282	91	77		460
			0.33	2.00	3.25	2.00		1.72							
伝染性紅斑									1	1	10	1	20		33
突発性発しん				3	1	3		7	58	34	166	66	151		475
				0.38	0.25	0.30		0.24							
ヘルパンギーナ	3	4	19	3	14		43	44	48	160	9	137		398	
	0.75	1.33	2.38	0.75	1.40		1.48								
流行性耳下腺炎				1	2		3	4	2	11	9	16		42	
				0.25	0.20		0.10								
流行性角結膜炎								5	1					6	
細菌性髄膜炎					1		1				1	3		4	
					1.00		0.20								
無菌性髄膜炎												2		2	
マイコプラズマ肺炎		1					1		3	9	1			13	
		1.00					0.20								
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								1						1	
インフルエンザによる入院患者（※2）											1			1	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。 ※1 その他は県外、居住地非公表分です。 ※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週（9月6日）～の集計です。

## インフルエンザ定点における患者診断状況

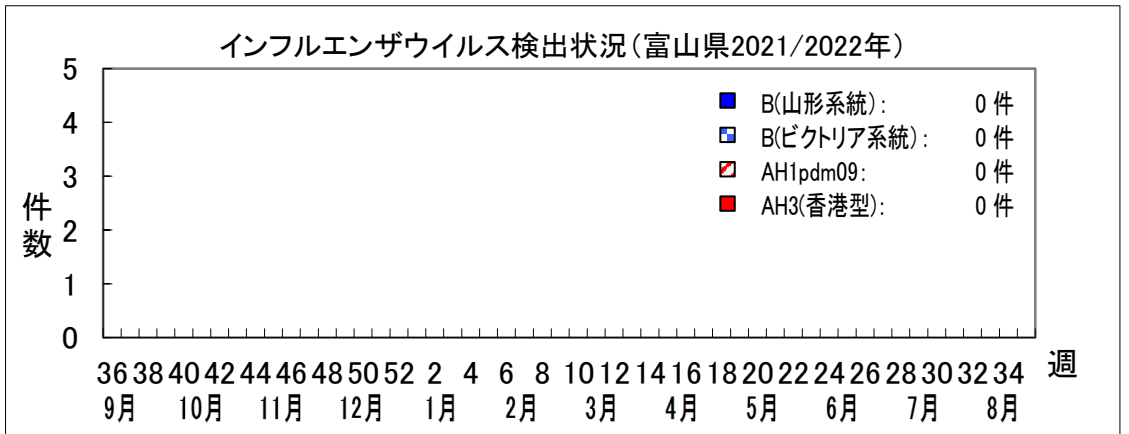
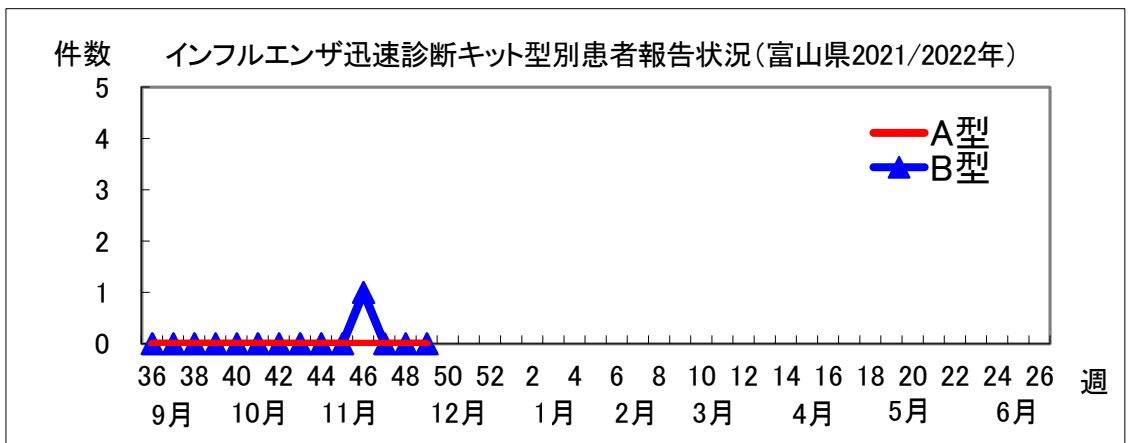
このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

### 第49週(12/6～12/12)：富山県 0.00人/定点

(単位:件)

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 <sup>※2</sup>	合計
		A型	B型		
新川	0 / 7	0	0	0	0
中部	0 / 5	0	0	0	0
高岡	0 / 13	0	0	0	0
砺波	0 / 7	0	0	0	0
富山市	0 / 16	0	0	0	0
富山県	0 / 48 <sup>※1</sup>	0	0	0	0
富山県累計(2021年36週～)		0	1	0	1

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が0か所あったことを示します。  
 ※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



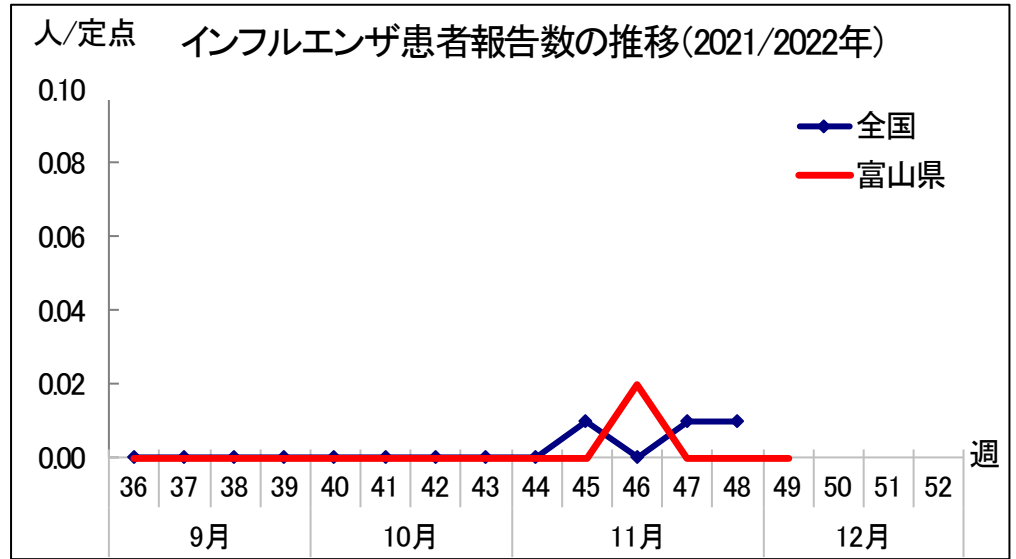


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第49週 (12/6~12/12) : 富山県 0.00 人/定点

新川 HC (0.00)、中部 HC (0.00)、高岡 HC (0.00)、砺波 HC (0.00)、富山市 HC (0.00)

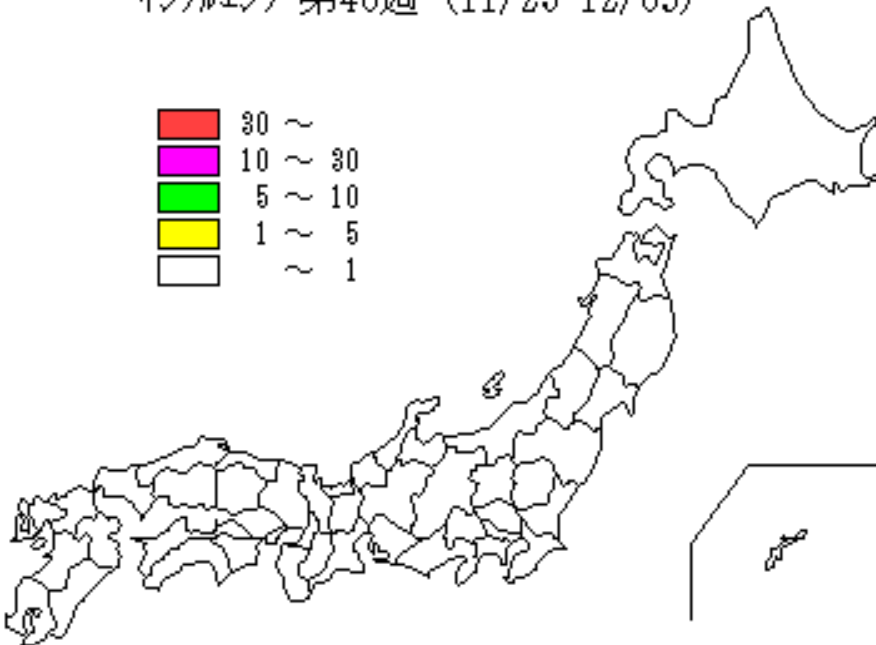
全国・富山県共にインフルエンザ患者報告数は少ない状態が続いています。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第48週 (11/29~12/5)

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 0.01 人です。

インフルエンザ第48週 (11/29-12/05)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	0.00	滋賀県	0.07
青森県	0.00	京都府	0.03
岩手県	0.00	大阪府	0.00
宮城県	0.00	兵庫県	0.00
秋田県	0.00	奈良県	0.02
山形県	0.00	和歌山県	0.04
福島県	0.02	鳥取県	0.00
茨城県	0.00	島根県	0.00
栃木県	0.00	岡山県	0.01
群馬県	0.00	広島県	0.00
埼玉県	0.01	山口県	0.00
千葉県	0.00	徳島県	0.00
東京都	0.00	香川県	0.00
神奈川県	0.00	愛媛県	0.00
新潟県	0.00	高知県	0.02
富山県	0.00	福岡県	0.00
石川県	0.00	佐賀県	0.00
福井県	0.00	長崎県	0.00
山梨県	0.00	熊本県	0.00
長野県	0.00	大分県	0.00
岐阜県	0.00	宮崎県	0.00
静岡県	0.01	鹿児島県	0.00
愛知県	0.02	沖縄県	0.00
三重県	0.08	全国	0.01

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年11月分）

		11月報告分					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
五類感染症 (定点把握)	性器クラミジア感染症			1		8	9		4	16		85	105
				0.33		2.00	0.90						
	性器ヘルペスウイルス感染症		1			2	3		9	5	4	38	56
			1.00			0.50	0.30						
月報対象疾患 (下段は定点当たりの患者数を示す)	尖圭コンジローマ					3	3				6	20	26
						0.75	0.30						
	淋菌感染症					3	3	1				24	25
						0.75	0.30						
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	2	2	3	8	16	8	13	28	17	56	122
		1.00	2.00	2.00	3.00	8.00	3.20						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							3		16	1	1	21

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。